

第2章 史跡大友氏遺跡の立地・環境

1. 歴史的環境

(1) 大分市中心部の歴史的変遷と豊後府内

大分市は、奈良時代に豊後国の国府が置かれて以来、大分県の政治・経済・文化の中心であり、歴史・文化の資源に恵まれている。そして、これらの豊富な資源が、現代のまちの中に重なり合い遺されていることは、本市の歴史的な特色を示している。中でも、大友氏に関連する中世の遺跡は、現在の中心市街地の一画に良好に保存されており、歴史を活かしたまちづくりを進める上で重要な資産といえる。

①大分市中心部の変遷

大分川の河口に近い左岸地域では、古くは縄文時代後期や弥生時代の遺跡が多く確認されているが、古墳時代後期から7世紀になると、上野台地の周辺には重要な遺跡が集中してみられるようになる。

上野台地の南方に位置する永興地区付近では、古墳時代の後半から7世紀にかけて巨石を用いた横穴式石室墳が、市内で唯一まとまって形成されている。その一つである弘法穴古墳は、当地を治めた大分国造に関わる古墳の可能性が高い。古国府遺跡群の西部では、近年の発掘調査により7世紀を中心とした地方官衙に係る大型建物跡が確認されている。このように石室墳と官衙的な遺跡が集中する地域は市内の他にはみられず、当地が7世紀代における政治の中心地であったといえる。

続く8世紀になると、古代の国府推定地とされる上野台地の東端部に位置する上野遺跡群では、国府に付随した曹司とされる竜王畑遺跡や、基壇と礎石を有した古代寺院の跡である上野廃寺が建立されている。また台地の東斜面には平安時代末期に元町石仏が造営されるなど、上野台地の東端部は古代における豊後国の中心地であった。

中世になると、大分川左岸の沖積地上には、



古国府遺跡群【飛鳥時代】
7世紀前半の大型建物跡



元町石仏【古代】

豊後国守護大友氏により 14 世紀初頭に万寿寺が創建され、さらに 14 世紀後半頃、現在の顕徳町に大友館が築造されたことで、これらを中心に「府内」と呼ばれる都市的な景観が形成されていく。16 世紀になると「府内」はさらに発展して、現在の元町から長浜周辺にかけて広がり、政治・経済・文化・交易・宗教等に関わる諸機能を備えた、豊後国の中心都市として繁栄した。

江戸時代初期になると大分川の河口に府内城が築城され、17 世紀初頭には中世府内町の諸寺院や町組を取り込みながら府内城と城下が完成する。豊後最大の商都として繁栄した現在の大分市中心部は、この近世城下町を踏襲したものである。

このように、大分市の中心地域は飛鳥時代から現代にかけて上野台地を起点として反時計回りに変遷するという史的な特色をもっている。

②中世府内の形成

大友氏館跡・唐人町跡・推定御蔵場跡・旧万寿寺地区等が立地する顕徳町から元町の様子を伝える古い記録として「八幡宇佐宮御領大鏡」があり、11 世紀の天喜元年（1053）、康平 2 年（1059）、承保 4 年（1077）の文書に「勝津留畠^{かちがつるばたけ}」として登場する。このうち、天喜元年の文書によると勝津留畠^{かちがつるばたけ}の西の限りは「高国府^{たかごう}」とされ、現在の上野台地東端部と推定されている。また、同じ文書の中には「東限北廻り、二方市河」の記述もあり、11 世紀中頃は太分川は市河と呼ばれていたこと、この段階ですでに太分川沿いで河原市が立っていたことが想定され、中世「府内」の初源的な姿と考えられている。

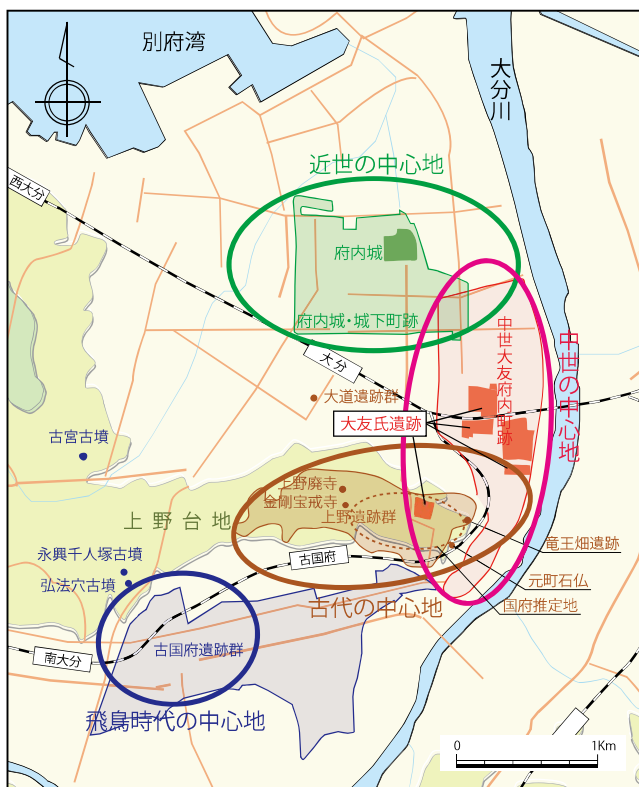


図 2-1 大分市中心部の遺跡の変遷



大友氏館跡庭園遺構【中世】



府内城【近世】

14 世紀初頭の徳治元年（1306）には、勝津留畠を含む一帯において万寿寺が建立される。発掘調査で遺構が確認されるのはこの時期からである。その後、14 世紀後半頃には大友館が形成され、つづく 15 世紀には大友館周辺の広い範囲で遺構の展開が確認されるようになり、さらに 16 世紀には図 2-2 にあるような町が拡大・形成された。

③豊後府内

戦国時代の府内は、遺構・遺物が質・量とも最大化し、史実に示される南蛮貿易の推進により繁栄した府内の姿へと発展する。「府内古図」に描かれた豊後府内の中心は南北 4 本、東西 5 本の道路が整備され、南北 2.1km、東西 0.7km の広がりがあったと考えられる。整然と区画された道路に沿って町屋が立ち並び、方二町の大友館内部には大規模庭園が造営される等、遺跡の面からも最盛期を迎えることが分かっている。この頃の府内の町の姿は、武家地と商家が混在する戦国時代の京都の町に似たものであったと考えられる。

豊後府内は、中国・朝鮮半島・東南アジア地域との貿易により繁栄した「国際貿易都市」、「戦国大名の館を中心に発展したまち」という二つの性格を併せ持った特性を有している。また、キリスト教宣教師の報告をはじめとする海外の文献史料が多く残る点も大きな特徴であり、東洋文化と西洋文化の出会いの場となり、いち早く南蛮文化が育まれた地であることを詳細に窺い知ることができる。

繁栄を誇った豊後府内は、天正 14 年（1586）の島津軍の豊後侵攻により灰燼に



中央の道路に面して町屋が建ち並ぶ「寺小路町」の調査状況全景写真
(中世大友府内町跡第 97 次調査)

帰す。その後、町は部分的に復興するが、大友館は元の場所に再建されることはなかった。

江戸時代初期になると府内城及び城下町が築城され、慶長7年（1602）頃に新城下町へ都市機能が移転したことで、豊後府内は終焉を迎えた。



「府内古図」は、江戸時代の府内藩主日根野吉明が、戦国時代の府内の町を偲んで、旧府内町を知る住民の情報を基に描かれた絵図といわれている。

「大友館」や「萬壽寺（万寿寺）」等の施設が描かれ、道路上には「唐人町」等の町名と、町境を示す施設である木戸が確認できる。戦国時代の府内の町の様子を示す貴重な資料である。

図 2-2 府内古図【個人蔵】

(2) 大友氏の概要

初代大友能直^{よしなお}が鎌倉時代に豊後の支配者として任命されて以後、大友氏は約 400 年間に亘り豊後国を本拠とし、21 代義鎮^{よししげ}（宗麟）の頃には、筑前・肥前等を含む北部九州 6 カ国の支配権を手に入れ、戦国大名としての威容を示した。

①大友氏の豊後国入国

大友氏の豊後入国については、初代能直、2 代親秀^{ちかひで}とも守護として入国した事実はなく、大友惣領家として最初に豊後に入国したのは 3 代頼泰^{よりやす}である。頼泰は、仁治 3 年（1242）「新御成敗状」二十八箇条、寛元 2 年（1244）には「追加」十六箇条を制定し、豊後国統治の基本方針を定め、元寇の際は鎮西奉行として豊後国の御家人を従え奮戦した。

②南北朝時代の太友氏

鎌倉幕府の滅亡後、後醍醐天皇の政権から足利尊氏が離反すると、天皇家は北朝（京都）と南朝（吉野）に分裂する。当時の太友惣領家 6 代貞宗^{さだむね}は、惣領が庶子に知行を分け与える分割相続の形態から嫡子単独相続の形態へと切り替えるが、これが南北朝対立と絡まり、太友氏一族内の対立を生み出す原因となった。太友惣領家は足利尊氏派（北朝方）の立場をとり、九州の北朝方の拠点となるが、8 代氏時^{うじとき}の頃南朝軍に度々府内に攻め込まれ、第 1 回目の南朝軍侵入の際は、なすすべもなく降伏する。北朝方に復帰を果たした後は、再三にわたり南朝軍の侵入を招くものの、高崎城で攻防を繰り返し敗れることはなかった。9 代氏継^{うじつぐ}は、太友家を存続させるため南朝方へ翻るが、10 代親世^{ちかよ}は九州探題であった今川了俊への協力を惜みず、南朝勢一掃後、多くの恩賞を与えられたことから太友氏中興の祖といわれる。

しかし親世は、自分の家督を兄氏継の子親著に譲ったことにより、氏継系・親世系の交替相続制を生み出し、太友家内部の家督騒動の要因を招くことになる。

この家督騒動も、14 代親隆^{ちかたか}が自分の娘を 13 代親綱^{ちかつな}の弟親繁^{ちかしげ}（15 代）の妻にするという条件で家督を譲り、その後は親繁の嫡子政親^{まさちか}（16 代）が惣領家を継ぎ、交替相続に終止符が打たれ、安定した権力基盤が形成されることになる。

③戦国時代の太友氏

戦国時代の始まりともいわれる応仁の乱の頃、太友親繁・政親父子は乱に深入りすることなく内政の充実に力を注いでいたが、17 代義右^{よしすけ}は父政親と対立し、両者の死を招くという事件が起きた。この事態を收拾したのが政親の異母弟 18 代親治^{ちかはる}である。以後、義長^{よしなが}・義鑑^{よしあき}・義鎮^{よしむね}・義統と安定した嫡子単独相続が行われる。19 代義長は戦国大名が分国の直接支配を強化するための基本である分国法を「条々」という形で定め、領国支配の確立へ向けて奔走し、戦国大名へと歩み出す。

20 代義鑑から 21 代義鎮へに移譲は、太友家最後の内紛「二階崩れの変」によって実現した。義鎮が家督を継いだ翌天文 20 年（1551）7 月、ポルトガル船が日出

沖に来航し、翌8月には義鎮の招きにより、フランシスコ・ザビエルが周防山口から府内に入りキリスト教の布教を始める。義鎮は、弘治2年（1556）頃、臼杵丹生島城に移り、永禄5年（1562）頃剃髪して宗麟と号した。宗麟は、父義鑑から継いだ豊後・肥後・筑後のほか、豊前・筑前・肥前を領し、6カ国の大名として過去最大の版図を築き、元亀元年～2年（1570～71）頃には家督を嫡子義統（22代）に譲った。

宗麟から義統の頃、豊後のキリスト教布教は次第に定着し、府内がイエズス会の日本における拠点となった。しかし、一方では、奈多大宮司家出身の田原親賢と宗麟夫人によるキリシタンの圧迫が行われる等、軋轢も生じた。

宗麟は、天正6年（1578）、受洗してドン・フランシスコと命名された。そして、島津氏に追われた伊東氏の本拠地の回復とキリスト教国家建設を目的に日向侵攻に踏み切るが、耳川の合戦にて大敗を喫する。続く、天正14年（1586）、九州制圧を目論む島津氏の豊後侵攻を許し、12月7日からの鶴賀城攻防、12日の戸次川の合戦で大友方は敗れ、義統は府内を脱出する。この危機は、豊臣秀吉の援軍で切り抜けるが、戦後、大友氏は豊後一国を安堵されたに過ぎなかった。宗麟は、秀吉から日向一国を与える申し出を辞退し、直後の天正15年（1587）5月23日、隠棲していた津久見にて没してしまう。

文禄元年（1592）3月、吉（義）統は家督を長子の義乗^{よしのり}（23代）に譲り、6千名の士卒を率い、黒田長政の指揮のもと朝鮮へと出兵するが、文禄2年（1593）、小西行長の援軍要請に対応できなかったという理由で知行を没収され、能直以来続いた大友氏の豊後支配は終わった。

豊後から追放された吉統は、常陸国水戸に幽閉中の慶長4年（1599）、かつて大友館で執り行われた年中行事の内容を記載した史料「当家年中作法日記」^{とうけねんちゅうさほうにつぎ}（以下、「作法日記」という）を後代のために書き残した。

吉統は慶長5年（1600）に起きた関ヶ原合戦では西軍について豊後に入り、大友家再興をかけ黒田孝高と戦うが、石垣原の合戦で敗北する。その後、大友氏は吉統の子である正照^{まさてる}の血統が、江戸幕府の儀式を司る高家として存続し明治に至った。

表 2-1 大友氏・府内関連年表①

	当主	大友氏・府内 関連事項	国内・国外の出来事
平安時代		11世紀半ば 「勝津留」の形成 1053〔天喜元〕 “高国府” “市河” の呼称 1059〔康平2〕 1077〔承保4〕 田中寺・市河の記載 1172〔承安2〕 このころ大友能直誕生。	1156〔保元元〕 保元の乱 1159〔平治元〕 平治の乱 1167〔仁安2〕 平清盛 太政大臣となる。 1185〔文治元〕 平氏滅亡。 1127年南宋成立 1192〔建久3〕 源頼朝征夷大將軍となる。 1195〔建久6〕 東大寺大仏殿再建される。
鎌倉時代	能直 (初代)	1196〔建久7〕 大友能直、豊前・豊後両国守護職兼、鎮西奉行に任ぜられる。	
	親秀 (2代)	1219〔承久元〕 2代親秀、豊前・豊後国守護職及び鎮西奉行等諸職を継ぐ。 1221〔承久3〕 承久の乱が起こり、大友親秀、幕府軍に従い京都に攻め上る。 1223〔貞応2〕 能直、京都で卒し、嫡子親秀が継ぐ。	1221〔承久3〕 承久の乱 六波羅探題の設置
	頼泰 (3代)	1234〔文暦元〕 “府中” 初見 1236〔嘉禎2〕 大友親秀、豊後国守護職・所領を嫡子頼泰に譲る。 1242〔仁治3〕 1.15 「新御成敗状」 2.18 大友頼泰守護職に	1232〔貞永元〕 御成敗式目の制定 1271年 モンゴル、国号を元とする。
	親時 (4代)	1274〔文永11〕 蒙古襲来、大友頼泰、豊後国御家人を率い筑前博多で戦う。	1274〔文永11〕 文永の役 1279年 元、中国統一
	貞親 (5代)	1285〔弘安8〕 大友頼泰、「豊後国岡田帳」を幕府に注進する。 1299〔正安元〕 鎮西引付衆がおかれ、大友貞親は三番となる。 1306〔徳治元〕 大友貞親、臨濟宗万寿寺を創建し、直翁智侃を招いて開山とする。	1281〔弘安4〕 弘安の役 1297〔永仁5〕 幕府、徳政令を発す。
	貞宗 (6代)	1333〔元弘3〕 大友貞宗、少弐・島津と共に九州探題北条英時を攻める。	1324〔正中元〕 正中の変 1331〔元弘元〕 元弘の変 1333〔元弘3〕 鎌倉幕府滅亡
(建武の新政)	氏泰 (7代)	6代貞宗、所領諸職(守護職附五職(在庁職?)並所領等)を7代氏泰に譲り、嫡子単独相統制に改める。 後醍醐天皇より博多息浜拝領。 1335〔建武2〕 大友氏泰代官、貞載、脇屋義助に従って足利尊氏討伐のため東下、伊豆砂の山で、尊氏に内応、朝廷軍敗れ京都に退く。	1334〔建武元〕 建武の新政
室町時代 南北朝時代	氏時 (8代)	1336〔延元元〕 大友貞載、京都にて戦死。 豊後勢、尊氏に従って九州に下る。 1341〔暦応4〕 大友氏時が瑞光寺建立。 1344〔興国5〕 この頃、大友貞宗の子貞頼・氏宗は南朝方、氏泰・氏時は北朝方の両派に分かれるなど向背離合常無い状況にある。 1351〔正平6〕 大友氏時・田原直貞・竹田津詮之ら尊氏が南朝に下るに従い南朝に下る。 1352〔正平7〕 大友氏時ら豊後武士の多くは、尊氏が北朝に帰順するに従い北朝につく。 1355〔文和4〕 懐良親王・菊池氏豊後府内に入り、大友を下す。 “古国府” 初見 1357〔延文2〕 大友氏時 高崎城を築き(伝承)これに拠る。 1359〔正平14〕 懐良親王、菊池氏を率い豊後に入る。 1361〔康安元〕 九州探題斯波氏経、大友氏時にむかえられ豊後府中に下り高崎城に入る。 1362〔正平17〕 菊池武光、豊後国府中に侵入。 1363〔正平18〕 大友氏時、足利義詮より筑後国守護職に補任。	1336〔正慶3〕 南北朝の対立がはじまる。 1338〔暦応元〕 足利尊氏が征夷大將軍になる。 1342〔康永元〕 室町幕府が五山十刹を定める。 1348〔正平3〕 征西將軍懐良親王、薩摩国より肥後国菊池に入る。
	氏継 (9代)	1371〔建徳2〕 今川了俊の子義範、豊後国高崎城に入る。 1372〔文中1〕 菊池武光、豊後高崎城を攻撃。 この頃、大友氏継は南朝方となり、弟親世は北朝方となる。	1368年明建国 1370〔建徳元〕 今川了俊、九州探題となる。
	親世 (10代)	1379〔天授5〕 足利義満、大友親世に勲功の賞として肥前・筑前・肥後の地を宛がう。 1383〔弘和3〕 大友親世、国々散在の所領・所職を將軍義満に注進する。 義満、親世の本領・新恩地等を安堵する。 1387〔嘉慶元〕 大智寺、開祖独芳禪師により開かれる。	1391〔明德2〕 南朝滅亡 1392年 朝鮮建国 1392〔弘和9・明德3〕 南北朝合一なる。
		1394〔応永元〕 大友親世、豊後守護職を安堵される。	
		1398〔応永5〕 大友親世、大内義弘とともに菊池氏を八代に下し、その功により、のちに鎮西奉行となる。	1397〔応永4〕 將軍足利義満が金閣寺をつくる。 1399〔応永6〕 応永の乱 大内義弘、幕府に滅ぼされる。

・芥川龍男 1990 「大友氏関連年表」『豊後大友一族』新人物往來社
・大分市史編纂委員会 1987 「大分市の歴史年表」『大分市史』中巻 等より作成

表 2-2 大友氏・府内関連年表②

	当主 年号は家督相続年 (一部推定含む)	大友氏・府内 関連事項	国内・国外の出来事
室町時代	1401 年 親著 (11 代)	1404 [応永 11] 大友親世「春日丸」就航。 1416 [応永 23] 大友親著、豊後国・筑後国の守護職に補任される。 1418 [応永 25] 大友親世、府内の別荘にて死去。 1423 [応永 30] 大友親著、所領所職を大友持直に譲る。 1425 [応永 32] 大友親著の子孝親、大分郡三角島にて乱をおこす。 1429 [永享元] 朝鮮貿易始まる (7 回)。	1401 [応永 8] 日明貿易始まる。
	1423 年 持直 (12 代)	1431 [永享 3] 大友持直、少弐満貞とともに大内盛見を筑前怡土郡に敗死させる。 1432 [永享 4] 大友氏と大内氏の戦い始まる。幕府、持直の守護職を没収。 豊後国守護職には大友親綱が任せられたといわれる。	
	1431～32 年 親綱 (13 代)	1439 [永享 11] この頃、大友親綱、家督を持直の弟親隆に譲る。	
	1439 年 親隆 (14 代)	1444 [文安元] 大友親繁、豊後国守護職補任。親繁、大内教弘と戦う。	1441 [嘉吉元] 嘉吉の乱。將軍足利義教が、 赤松満祐に殺害される。
	1444 年 親繁 (15 代)	1451 [宝徳 3] 第 11 次遣明船の 6 号船として大友船加わる。	
	1462 年 政親 (16 代)	1462 [寛正 3] 大友政親、將軍義尚より豊後国、筑後国の守護職を安堵される。 1465 [寛正 6] 大友親繁、筑後国守護職に補任される。	
	1484 年 義右 (17 代)	1469 [文明元] 大友親繁、細川勝元の東軍につき、大内政弘と戦う。 1476 [文明 8] 雪舟来豊	1467 [応仁元] 応仁の乱始まる。 1471 [文明 3] 博多統治・大友殿東北 6000 余戸 少弐殿南西 4000 余戸
	1496 年 親治 (18 代)	1484 [文明 16] 大友政親、家督を嫡子親書 (材親・義右) に譲る。 1494 [明応 3] 大友材親、將軍足利義材より偏諱「義」字を許され義右と改名。 1496 [明応 5] 大友政親・義右父子、不和により義右殺害される。 政親の弟親治、跡を継ぎ、宗家を再興。	1477 [文明 9] 応仁の乱終わる。
	1501 年 義長 (19 代)	1501 [文亀元] 幕府、九州探題料地を大友親治に与え、大内義興の討伐を命じる。 幕府、親治の譲りにより豊後・豊前・筑後国守護職以下の所領を 義親 (義長) に安堵。	1501 [文亀元] 『海東諸国紀』成立。
	1515 年 義鑑 (20 代)	1515 [永正 12] 義長の「条々」制定。 1516 [永正 13] 朽網親満の反乱。 1518 [永正 15] 大友義長、死去。親安 (義鑑) が跡を継ぐ。朽網親満の乱を收拾する。 1525 [大永 5] 大内義興・尼子経久の戦いに、大友義鑑は義興に援軍を送る。 1527 [大永 7] 海部郡佐伯惟治、菊池義武と通じ大友義鑑に背き、臼杵長景に 攻め滅ぼされる。 1534 [天文 3] 大友義鑑、速見郡勢場ヶ原で大内義隆の軍と戦う。 1536～37 [天文 5-6] 頃 式三献の儀式が導入される。 1538 [天文 7] 大友義鑑、大内義隆と和す。 1545 [天文 12] このころ、初めてポルトガル人が府内を訪れる。 大友義鑑遣明船を派遣。	
戦国時代	1550 年 義鎮 (21 代) (宗麟)	1550 [天文 19] 二階崩の変が発生。義鑑卒し、義鎮、乱を平定し、跡を継ぐ。 1551 [天文 20] ポルトガル船 (ドアルデ・ガマ船長) 沖ノ浜に来航。 ザビエル府内訪問。(接見場所は大友館か) 1552 [天文 21] ガコ神父沖ノ浜に来航。一万田鑑相らの反乱。 大友晴英、大内氏を継ぎ義長と改める。 1553 [天文 22] 府内教会建立 1554 [天文 23] 大友義鎮、肥後国守護職に補任。 1555 [弘治元] ルイス・アルメイダ、府内に育児院を建てる。 1556 [弘治 2] 小原鑑元の乱おこる。 義鎮、海部郡臼杵に丹生島城を築き、移る。 1555～56 [弘治元-2] 鄭舜功 (『日本一鑑』著者 1560 年代) 来府。 1557 [弘治 3] 毛利元就、大内義長滅ぼす。 ルイス・アルメイダ、府内に病院を建てる。(義鎮、会堂を寄進) 1559 [永禄 2] 義鎮、將軍義輝より豊前・筑前・筑後国守護職に補任され、 九州北部 6 力国の守護を兼ねる。九州探題職と大内家家督を得る。 1560 [永禄 3] 義鎮、「左衛門督」に任じられる。 1561 [永禄 4] 義鎮、毛利方の門司城を攻め、大敗す。 1562 [永禄 5] 義鎮剃髪し、宗麟と称す。	1551 [天文 20] 大内義隆、陶晴賢に滅ぼされる。 織田信長家督を継ぐ。
	1570～71 年 義統 (22 代)	1570～71 [元亀元～元亀 2] 宗麟、家督を子義統に譲る。 1571 [元亀 2] 大友軍、赤間関にて毛利軍と戦う。 1578 [天正 6] 宗麟、日向国に出兵、土持親成を討つ。同年臼杵にて洗礼を受ける。 宗麟、日向国高城にて島津軍と戦い大敗 (耳川の合戦)。 1580 [天正 8] ヴァリニャーノ豊後府内に到着。臼杵にて宗麟に謁す。 ヴァリニャーノ、臼杵にノヴィシャド (修練院) を開所。 1581 [天正 9] 府内にコレジオ (学院) 開校。 1582 [天正 10] 伊東マンショら少年使節、長崎を出発。 1585 [天正 13] 豊臣秀吉、大友・島津両軍に停戦を命じる。 1586 [天正 14] 宗麟、秀吉に停戦命令を受け入れる旨伝えるため上坂する。 島津軍、日向国、肥後国方面から豊後国に攻め入る。 戸次川の合戦で、長宗我部信親戦死。島津軍府内に侵入、府内焼失。 1587 [天正 15] 秀吉の軍が九州に入り、島津軍退く。 秀吉、義統に豊後国を与える。宗麟には日向国を与えるが、 宗麟辞退。その後宗麟、津久見にて卒す。 1588 [天正 16] 大友義統、秀吉より偏諱「吉」字を受けて吉統に改名。 1592 [文禄元] 大友軍 6000、朝鮮半島へ。 1593 [文禄 2] 吉統、朝鮮の役による罪を問われ改易、豊後国は秀吉の蔵入地へ。 1594 [文禄 3] 早川長敏入府。上原館を修築して使用か。 1596 [慶長元] 豊後国に大地震あり、沖ノ浜が海中に没す。 1597 [慶長 2] 福原直高入府。 1600 [慶長 5] 関ヶ原の戦いおこる。 大友吉統は、西軍につき、石垣原にて黒田孝高と戦い大敗。 1599～1600 [慶長 4-5] 府内城・新城下町建設	1560 [永禄 3] 桶狭間の戦い 1567 [天文 20] 信長、美濃攻略。岐阜を本拠とする。 宗麟、信長に「赤壁城凶盗」を贈る。 1568 [天文 21] 信長、足利義昭を奉じ、上洛。 義昭を 15 代將軍とする。 1571 [元亀 2] 毛利元就死去 1573 [天正元] 室町幕府、滅亡する。 1576 [天正 3] 信長、安土城を築造する。 1582 [天正 10] 信長、本能寺の変にて死去。 1585 [天正 13] 豊田秀吉、関白となる。 1587 [天正 15] 伴天連追放令を出す。 1590 [天正 17] 秀吉、全国平定。 1592 [文禄 2] 文祿の役 1593 [文禄 3] 太閤検地 1597 [慶長 2] 慶長の役
	1593 年 大友氏豊後除国	1602～5 [慶長 7-9] 竹中重利により府内城完成。 町割を行い大友時代の「府内町」を移転。 1650 [慶安 3] 頃 初瀬井路の開削。	1603 [慶長 8] 徳川家康、征夷大將軍になる。 1644 年明滅亡
江戸時代			

2. 自然的環境

(1) 地形・地質

①地形

大分市の東端は豊後水道を望む佐賀関半島・高島で、西は別府市・由布市に接しており、東西距離は約 42km の広がりをもつ。北は別府湾に面し、南は臼杵市・豊後大野市・竹田市と接しており、南北距離は約 20km である。豊後大野市との境界は、^{よろい}鎧ヶ岳（標高約 859 m）をはじめ、^{えぼし}烏帽子岳、^{くもがせ}雲ヶ背岳、^{ござ}御座ヶ岳等といった標高 700 ～ 800 m の急峻な山が連なっている。東に進むにしたがって、比較的なだらかな山並みが続く。

大分市内には、大分川と大野川の 2 つの一級河川がある。大分川は、由布市挟間から横瀬、賀来、光吉を蛇行して東流し、古国府付近から北流して別府湾に注ぐ。大分川支流の一つである七瀬川は、豊後大野市付近の源流から野津原を経て、光吉付近にて本川に合流する。大野川の源流は宮崎県・大分県の県境にある祖母山に発し、大分市域では北流し別府湾に至る。

高崎山から東に延びる上野台地、大野川と大分川に挟まれた^{つるさき}鶴崎台地、大野川右岸の丹生台地は標高 200 m 以下の丘陵地及び台地で、農地・里山から住宅地や工業地帯に変貌しつつある。下流域は大分川と大野川によって形成された大分平野が広がっている。

海岸部においては、北部沿岸海域は水深が深く、東部沿岸は豊予海峡に面したりアス式海岸で、いずれも天然の良港となっている。

大友氏遺跡は大分川左岸に形成された自然堤防上に立地し、現在の標高は約 4.0 ～ 6.0 m を測る。この自然堤防を構成する堆積土層は、2.0 ～ 4.0 m 程の厚さがあり、下位の砂層からは縄文時代後期～古墳時代前期の土器が、上位の層からは 8 世紀頃の遺物が出土していることから、縄文時代～古代にかけて形成されたと考えらえる。



図 2-3 大分市地勢図

②地質

市域の表層地質の分布についてみると図 2-4 に示すように佐賀関山地の変成岩類、大野山地の古生層、高崎山山地一帯の火山岩類に分けられ、これらの縁辺に第三紀層や洪積砂礫層、河川沿いの段丘堆積物や沖積層などが分布する構成となっている。

変成岩類は、領家変成岩類と三波川変成岩帯類が分布している。三波川変成類は佐賀関半島一帯に分布し、幅南北 8km、東西延長 27km、県下の変成岩中、最大の面積を占める。黒色の石墨片岩類のほか、緑色片岩類、千枚岩、砂岩片岩などからなる。領家変成岩類は市域の南西部に分布し、花崗岩類も伴っている。

古生層は、大分市南西部の野津原地区一帯にかけて、北東方向に野津原古生層が分布しており、一般に結晶片岩、粘版岩からなる。

中生層は、大野川の流域に発達する大野川層群で礫岩・砂岩・頁岩の繰返しからなり、非常に厚く、北東から南西方向に比較的良好に連続して分布している。

第三紀層は、野津原地区一帯に分布する碩南層群でシルト・砂・礫などを含む堆積岩である。

火山岩類は、大部分が安山岩からなるが、鎧ヶ岳熔岩は流紋岩からなる。七瀬川流域と高崎山山地一帯に多く分布している。

第四紀層は、火山性扇状地、山麓堆積物、段丘堆積物、海浜、河口・盆地・湖底堆積物などがある。大部分が未固結の砂泥・岩屑・泥・砂・礫などからなり、大きく更新世堆積物と未固結堆積物の二つに分類され、更新世堆積物は、大分市の南部に小丘をなす大分層群、この他第四紀堆積物の阿蘇火砕流堆積物が大野川河川沿いに分布し、未固結堆積物は、大分平野には沖積層が厚く堆積している。

沖積層は、下部にシルト～砂、上部に砂で全体的には砂を主体としており、最も厚いところで 80m に達し、基盤は凝灰岩、凝灰質泥岩である。

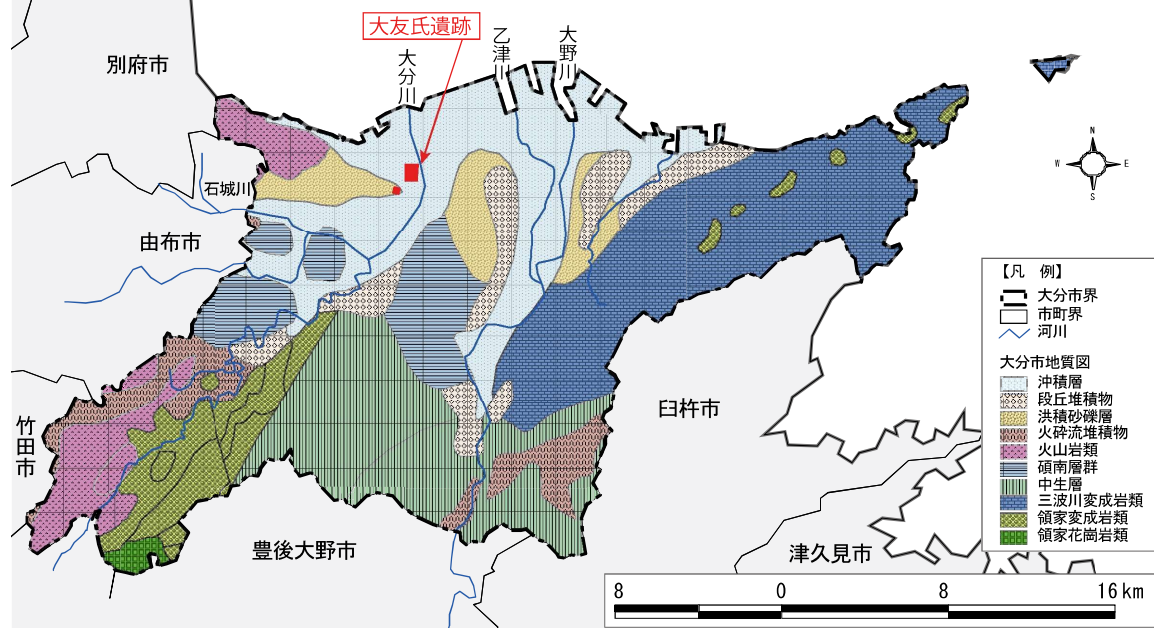
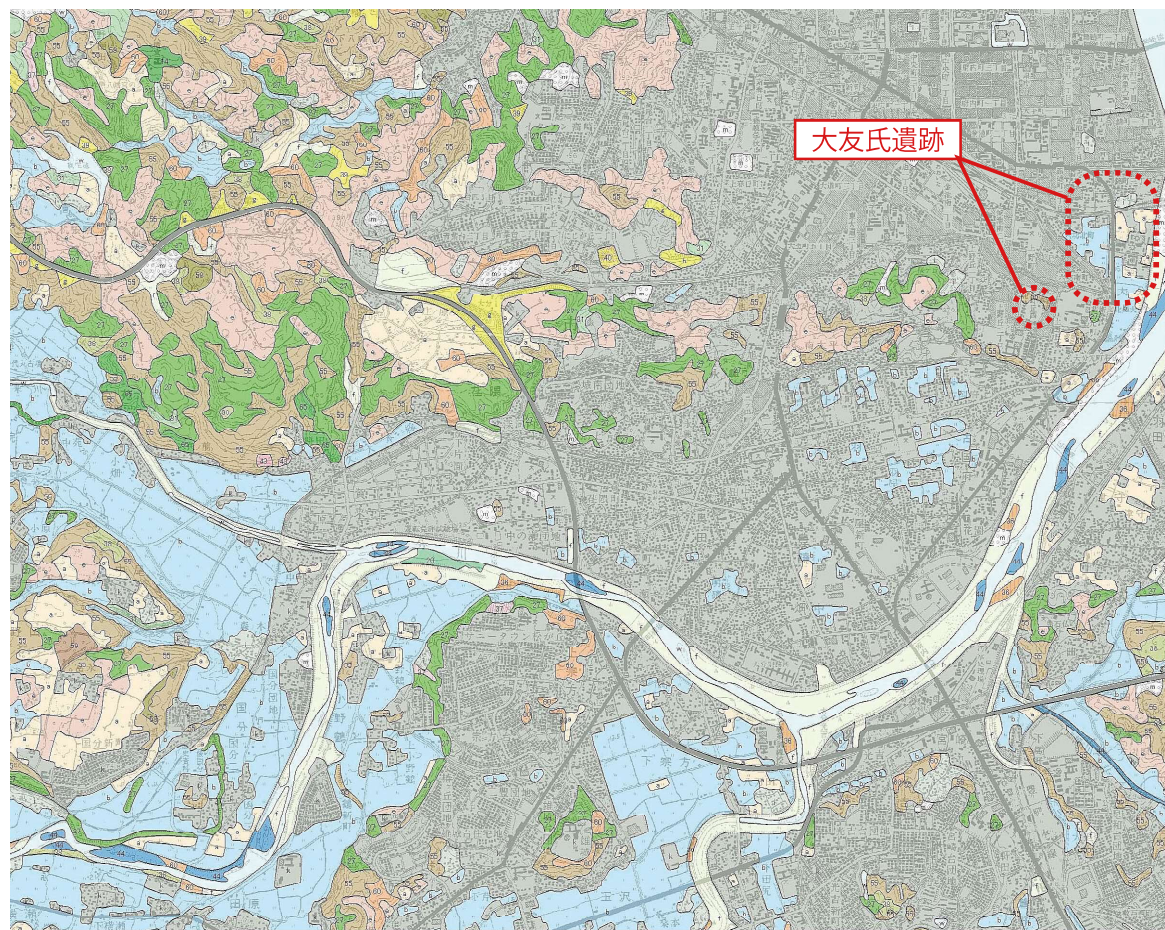


図 2-4 大分市地質図 (出典『大分市地域防災計画』資料編 大分市地質図を一部改変)

(2) 植 生

大分市の植生は、南部の山地、丘陵地ではスギ・ヒノキ林、クヌギ・コナラ林等の植栽林が大半を占めている。図2-5の大分市植生図に示す範囲の植生は、丘陵地ではシイ・カシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林に混じって果樹園が見られる。

大友氏遺跡が所在する市街地内の緑には、都市公園や河川、教育施設等の公共の緑地や社寺境内地といった緑地がある。大友氏遺跡は、現状における植生はわずかであり、旧万寿寺地区の一部では畑が、推定御蔵場跡の一部では水田耕作が行われている。また、上原館跡については、館内部は宅地化されているが、北西部の張り出し部は現在山林となっており、クスノキ・カシ類の樹木が成長して密生している。



植生図 凡例

凡例色 植生図凡例番号 統一凡例番号 統一凡例名

- | | |
|-------------------------------|----------------------|
| 65, 270200, アラカシ群落 | 59, 541000, その他植林 |
| 14, 271201, ヤブコウジ・スダジイ群落 | 58, 541202, クヌギ植林 |
| 20, 300201, ムクノキ・エノキ群落 | 60, 550000, 竹林 |
| 27, 400100, シイ・カシ二次林 | h, 560100, ゴルフ場・芝地 |
| 31, 410100, コナラ群落(VII) | a, 560200, 牧草地 |
| 38, 410700, アカメギシワ・カラスザンショウ群落 | f, 570100, 路傍・空地雑草群落 |
| 33, 420100, アカマツ群落(VII) | e, 570200, 果樹園 |
| 36, 430200, メダケ群落 | a, 570300, 畑雑草群落 |
| 37, 440200, クス群落 | b, 570400, 水田雑草群落 |
| 39, 450102, ネザサ・ススキ群落 | d, 570500, 放棄水田雑草群落 |
| 40, 450103, チガヤ・ススキ群落 | k, 580100, 市街地 |
| 43, 460000, 伐採跡地群落(VII) | i, 580101, 緑の多い住宅地 |
| 44, 470400, ヨシクラス | L, 580300, 工場地帯 |
| 46, 470501, ツルヨシ群落 | m, 580400, 造成地 |
| 55, 540100, スギ・ヒノキ・サワラ植林 | w, 580600, 開放水域 |
| 57, 540900, 外国産樹種植林 | r, 580700, 自然裸地 |



0 0.25 0.5 1 1.5 2 km
1:25,000

図2-5 大分市植生図（出典：第6回環境省自然環境保全基礎調査植生調査）

3. 社会的環境

(1) 交通

① 広域的な交通網

大分市は、東九州最大となる約 48 万人の人口を有する中核都市であり、同時に大分臨海工業地帯に代表される産業都市である。

日本の九州の東端、東九州軸の北部、瀬戸内海の西端に位置し、大分県の扇状県域の要として、南は臼杵市及び豊後大野市、西は別府市、由布市及び竹田市に接し、九州でも有数の広い市域を有している。このため大分市は、陸・海の広域交通拠点となっており、九州・西日本各地から東九州への玄関としての役割を担っている。

陸路としては、大分自動車道や東九州自動車道が、鉄道では、大分駅を起点とする J R 在来線（日豊本線・豊肥本線・久大本線）が整備され、宮崎、熊本、福岡へのルートを形成している。海路は、大分市から神戸・三崎（愛媛県）を発着するフェリーがあり、瀬戸内海を介した人・物の移動が活発に行われている。なお、空路は国東市にある大分空港を利用して、東京（羽田・成田）、大阪（伊丹）、名古屋（中部国際）からの路線が就航しており、大分空港から市内まではバスで 1 時間ほどの距離となる。



図 2-6 大分市への交通網図

②大友氏遺跡周辺の交通

J R 大分駅から東に約 1.0km（直線距離）の地点に所在する大友氏館跡は、徒歩約 17 分とアクセス性が極めて高い。駅から大友氏館跡までは、大分駅府内中央口（北口）→都市計画道路要町東西線→同県庁前古国府線→ボードウォーク→大友氏館跡、もしくは大分駅上野の森口（南口）→市道要町 3 号線等の J R 線路沿いの道路→県庁前古国府線→ボードウォーク→大友氏館跡のいずれかの経路がメインとなる。鉄道残存敷については、中心市街地から大友氏遺跡へと続く大分歴史回廊として、賑わいをつなぐ交流の場及び緑と文化が感じられる集いの場となる「線路敷ボードウォーク広場」として令和元年度に整備され、大友氏館跡までの導入路として活用されている。また、大分駅からは路線バスが利用できる。最寄の停留所は、大友氏館跡は「顕徳町」バス停、旧万寿寺地区は「東元町」バス停、上原館跡は「上野」バス停である（108 頁図 5-9 参照）。

令和 4 年（2022）4 月 1 日からは、J R 大分駅から県立美術館、市美術館などを経由する中心市街地循環バス「大分キャンバス」のルートに「大友氏館跡西側入口」停留所が新設された（107 頁図 5-8 参照）。

大友氏遺跡へは、東九州自動車道大分インターチェンジより庄の原佐野線を経由して車で約 10 分以内の距離にある。平成 28 年（2016）4 月の東九州自動車道全面開通により、県外からの車による大友氏遺跡への来訪が容易になっており、交通アクセスの観点から観光地としてのポテンシャルは高いと考えられる。課題となっていた駐車場の確保については、平成 30（2018）年度に大友氏館跡隣接地 2 箇所に駐車場が整備され、利便性の改善が図られている。



図 2-7 大友氏遺跡周辺の交通網図

大友氏遺跡の西側に隣接する中心市街地には、多くの人で賑わう大分駅・JRおおいたシティ、商店街などの本市の拠点となる商業施設のほか、大分県立美術館や大分市美術館、アートプラザなどの芸術文化施設、ホルトホール大分やコンパルホール、大分県総合文化センターといった複合文化施設などが数多く立地している。また、大分城址公園（県・市指定史跡府内城跡）とその周辺には、近世城下町の都市区画が現在の中心市街地の道路や地割りに継承されており、大分市中心部に残る唯一の洋館である大分銀行赤レンガ館（国登録有形文化財）もその中に含まれている。大友氏遺跡は、これらの中心市街地に点在する歴史文化施設や近世府内城と連携した公開活用が期待される環境にある。



(3) 法規制の設定状況

大友氏遺跡とその周辺の法規制の設定状況を整理する。

表 2-3 第 1 期整備エリア法規制設定一覧表

規制区域	担当課	概 要
文化財保護法に基づく埋蔵文化財包蔵地 (図 2-9)	文化財課	工事予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地にある場合は、届出（文化財保護法 93 条）が必要である。 中世大友府内町跡は埋蔵文化財包蔵地であり、保護と開発事業との調和を図り、適正な発掘調査の実施と遺構・遺物の公開・活用に努めるものである。
都市計画法第 11 条に基づく都市施設「大友氏遺跡歴史公園」 (図 2-10)	都市計画課	平成 24（2012）年 3 月時点で、17.5ha が都市計画公園として決定している。
都市計画法第 8 条に基づく地域地区 (図 2-10)	都市計画課	●用途地域 大友氏遺跡歴史公園は、近隣商業地域、第 1 種住居地域、準工業地域に該当する。
		●防火地区・準防火地区 大友氏遺跡歴史公園には、準防火地区が含まれる。
		●特別用途地区 旧万寿寺地区は、大規模集客施設制限地区である。 ※大分都市計画区域内の準工業地域の全部を特別用途地区として指定し、「大規模集客施設制限地区」において、床面積の合計が一万平方メートルを超える集客施設の建築を制限。 (大分市特別用途地区建築条例：平成 20 年 5 月 2 日施行)
建築物における駐車施設の附置等に関する条例に基づく駐車場附置義務地域 (図 2-11)	都市計画課	駐車場の必要性が高い商業地等において、一定規模を超える建築物の新築、増築及び用途の変更を行う場合は、駐車施設を設置する。
自転車等の放置の防止等に関する条例に基づく駐輪場附置義務地域 (図 2-11)	都市交通対策課	商業地域及び近隣商業地域等の指定区域内において、規定する規模を超える建築物の新築、増築を行う場合は、自転車等駐車場を設置する。
景観法（大分市景観計画）に基づく行為の制限	まちなみ企画課	市全域を景観計画区域に設定している。 ・市街化区域における行為の制限の例として、建築行為は高さ 20 m 以上、又は延床面積 3,000 m ² 以上を届出の対象としている。
屋外広告物条例 (図 2-12)	まちなみ企画課	●禁止地域 広告物を表示し、又は掲出物件を設置してはならない地域であり、文化財指定範囲、都市計画に定めた地域地区の一部、あるいは都市公園等を対象に設定されている。 ●許可地域 禁止地域以外は、第 1 種許可地域・第 2 種許可地域に区分される。 ●その他 地域鉄道高架沿線地域（高架上区域）

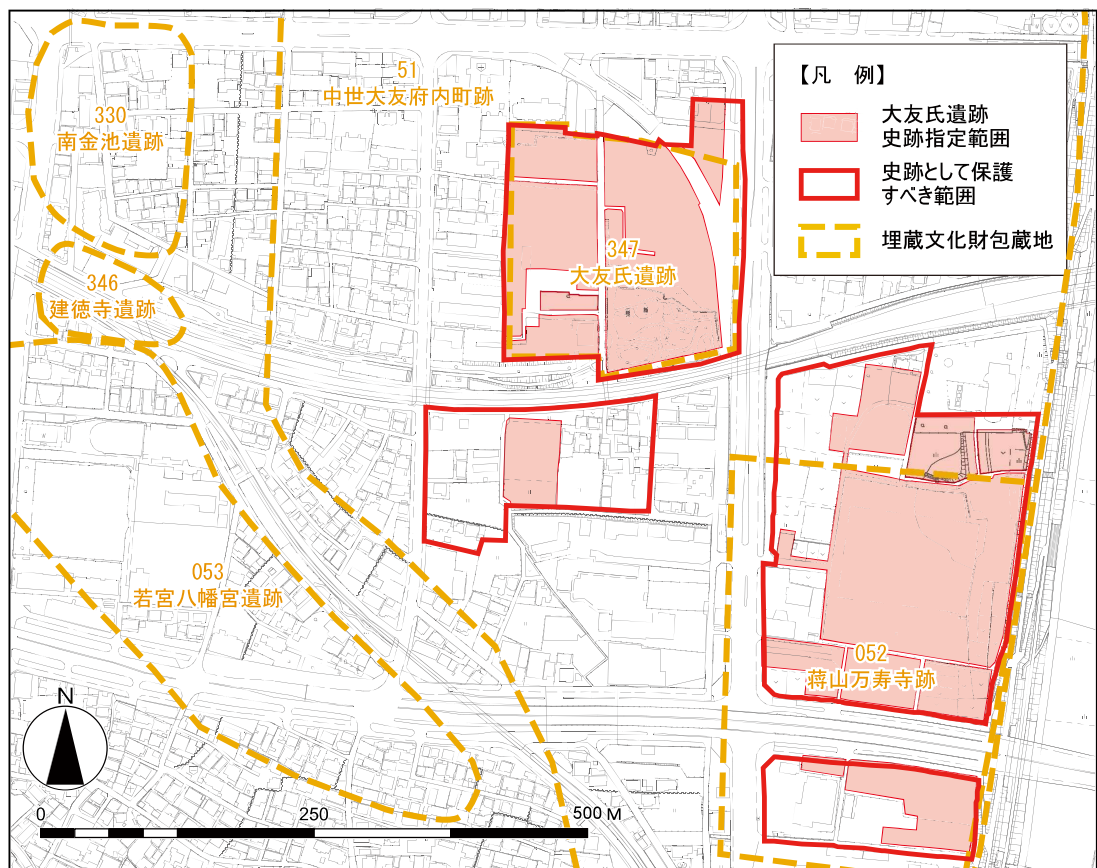


図 2-9 史跡・埋蔵文化財包蔵地等の設定状況

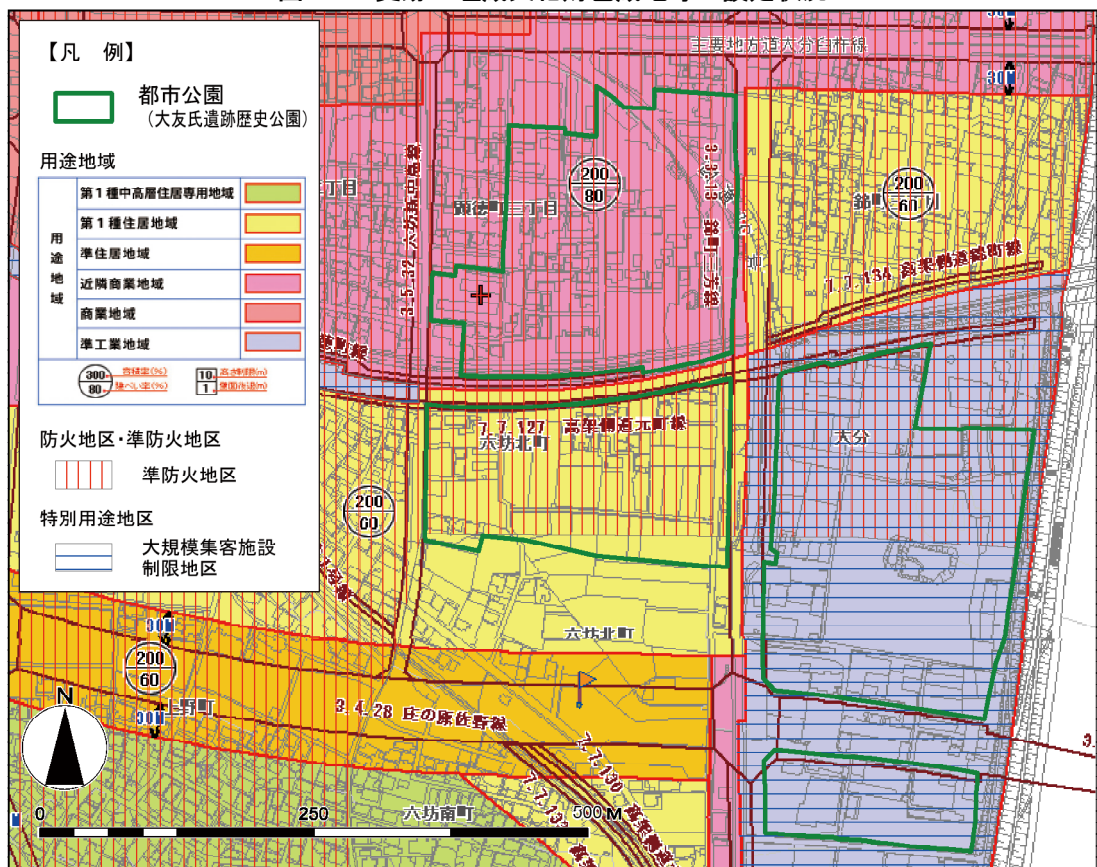


図 2-10 都市計画における地域地区（用途地域等）の設定状況

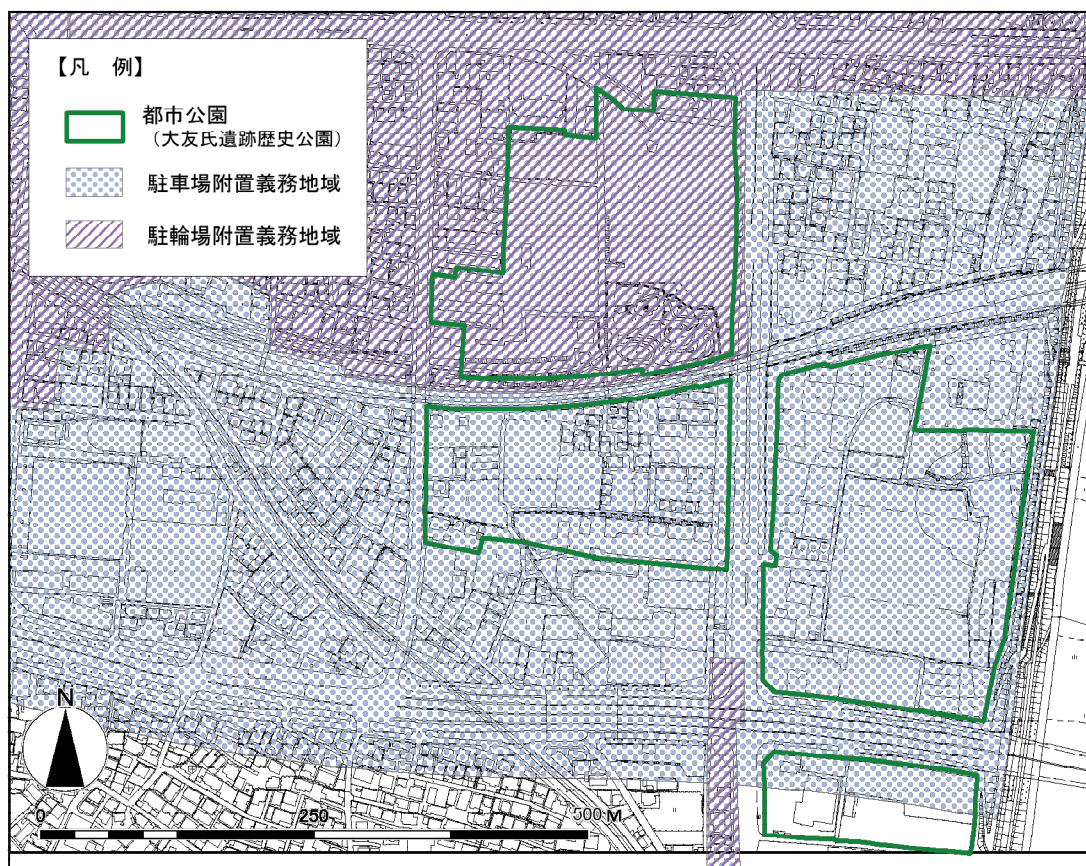


図 2-11 駐車場附置義務地域及び地区・駐輪場附置義務指定区域の設定状況

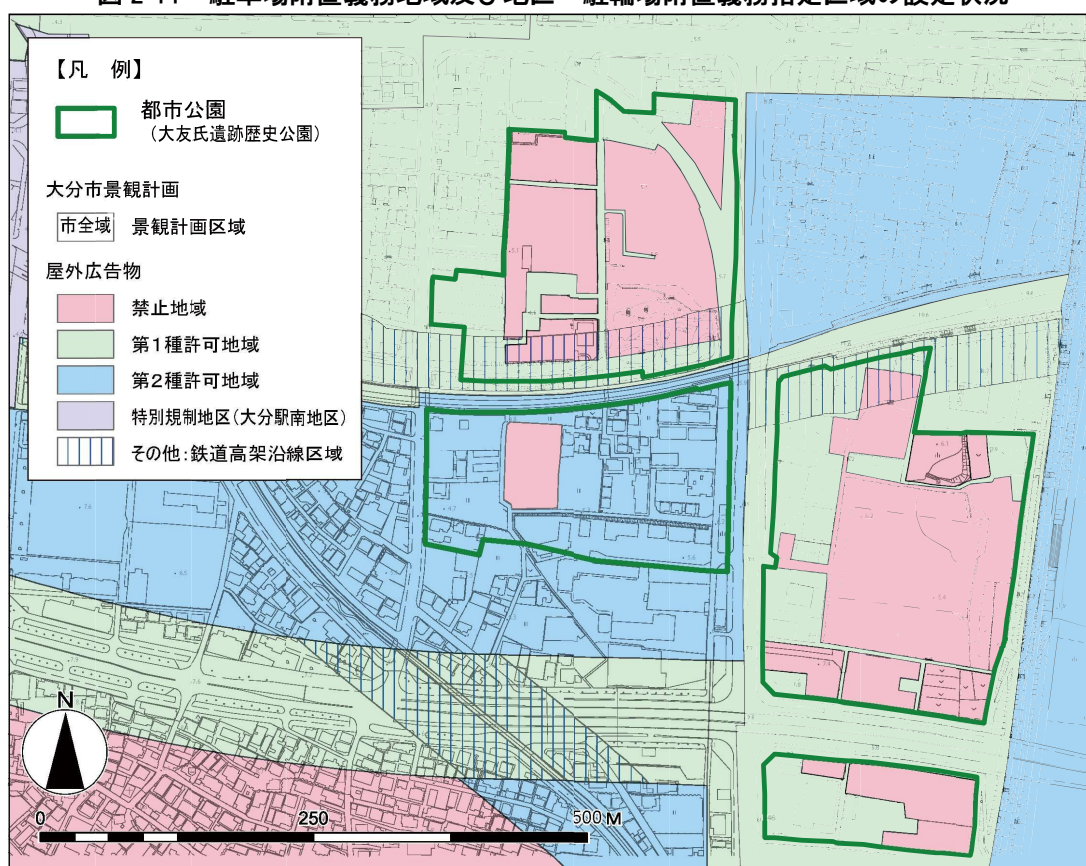


図 2-12 屋外広告物条例関連の地域・地区等設定状況

(4) 大友氏遺跡の保存活用関連事業

表 2-4 保存活用関連事業

事業名	目的	担当課
大友宗麟プロモーション事業 平成 25 (2013) 年度～	「大友宗麟公とその時代」の功績を学び、守り、活かし、育てていくことを通じて、ふるさとに対する愛着心や誇りの醸成を図るとともに、本市の歴史特性や魅力を全国に情報発信することにより、認知度向上や誘客につなげる。 ●主な活動 ・パンフレット、ノベルティの作成 ・NHK 大河ドラマの誘致	観光課 文化財課

事業名	目的	担当課
キリシタン・南蛮文化交流 協定協議会事業 平成 25 (2013) 年度～	大友宗麟やキリシタン南蛮文化にゆかりのある自治体が連携協力を図り、情報や人的交流を組織的に展開することにより、地域に残る文化遺産をより広く周知させ、それぞれの市のまちづくりの推進及び地域振興、観光振興の活性化につなげる。 ●主な事業 ・おおいた子ども親善大使事業 ・キリシタン南蛮文化ツアー ・ガイドマップの作成	文化財課 観光課 [構成団体] 国東市 大分市 臼杵市 津久見市 竹田市 由布市